

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3270700507		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム はまぼうふう		
所在地 (電話番号)	島根県浜田市久代町1-7 (電話) 0855-28-3371		
評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター3階		
訪問調査日	平成 19年 7月 27日	評価確定日	平成19年8月31日

【情報提供票より】(19年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人 非常勤 0人 常勤換算 15.6人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1日当たり 150円
	または1日当たり 850円		

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	62歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター 岡本歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年目の、医療福祉と、良識あるサービス提供を目指すホームである。家族会や運営推進委員会と連携して利用者の支援にあたり、職員は「利用者の行動を遮らず見守る」「利用者の気持ちになって行動する」という心を共有して、穏やかなサービスを提供している。特に、年4回の「ホーム便り」や毎月の「〇〇様の生活の様子」等、家族が知りたいことを心を込めて作っている。年3回開催される家族会も、積極的にホームの運営支援をしている。関係者の、「利用者個々に合わせた当たり前の支援をしよう!」という意気込みが伝わってくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価をもとに、職員全員で実現可能なことからの改善努力に取り組んでいる。「運営推進委員会議を活かした取り組み」「チームで取り組む利用者本位の介護計画」等は、この1年間の関係者の努力を感じる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で評価項目について検討するようになっていた。時間的なこともあり、すべての項目に意見が出ない場合は、管理者が日々のカンファレンスや業務日誌等の意見や記述等を確認してまとめている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの行事や予定、日々の暮らしぶり、職員の動向、家族会の様子、避難訓練等々の報告。外部評価や、新しいサービス(通所・短期入所)についての話題等を出して、事業所・家族会・運営推進委員会が一緒になってサービスの向上を図っている。会議の報告書が作られ、その内容は全職員で共有している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年3回の家族会や年4回の「ホーム便り」と、毎月の「〇〇者の様子」等は家族に安心感を与えている。家族会の後に、家族だけで話しをする時間もあり、出た意見は家族代表が事業所側へ伝えている。個々の意見や相談ごともしっかりと気軽にできる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム周辺には民家がなく、国道沿いでもあり、日常的に地域の人々と交流しにくい。運営推進会議を通して、地域との付き合い・交流をどのように進めていくかを話し合っているが、中々進んでいない。今後は、事業所から積極的に働きかけ、地元の人々と交流できる機会づくりをして欲しい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの頭文字を使った分かりやすい表現の理念は、職員が考え、管理者が肉付けした。玄関に掲示し、日々の支援に役立てている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々のカンファレンス、月1回の会議等を通して、利用者個々のために、今、何ができるのかを考えて実践しているが、地域の方々にも、ホームの運営理念を広く理解してもらうための工夫が、今のところ不足している。	○	ホームの案内パンフレットに載せたり、ホーム便り等で、地域に向けての、理念の周知についての方法を考えて頂きたい。
muketeno					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会から、地域の方々へ介護についての話しをする機会を要望されたが、その後立ち切れ状態となっている。運営推進会議を通じた地域交流を図ろうとしているが、進展していない。ボランティア等でフルートの演奏会などは時々ある。	○	地域の情報を入手しながら、事業所の広報や、市の関係者等にも依頼して交流やボランティア要請を発信し、地域の方々との交流機会づくりを積極的に企画されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の改善点をまとめて回覧し、リビングや玄関の雰囲気・カーテン・換気等、すぐできることから改善中。今回の自己評価も全職員で取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。活動報告や行事予定・家族会の様子・外部評価で明らかになった改善等を中心に、開催時期に応じた議題の意見交換が行われ、その意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年4月より、2ヶ月に1回、「地域密着部会」がスタート。浜田市の担当者の仲立ちで、他のグループホームから管理者が集まり、情報交換等しながら、市の担当者と共にサービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会の開催は年3回。利用者のホームでの暮らしぶりや金銭管理、職員とのかかわり等が報告されている。毎月の個々の生活の様子やホーム便りは、丁寧に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族アンケート」を実施して、積極的に家族の意見をホームの運営に活かそうとしている。家族会も積極的に運営に係わろうとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合には「別れ」の形ではないように気配りし、利用者や家族の不安や心配が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修は、職員1名以上参加できるよう研修機会を設けている。研修参加後は、毎月の全体会議にて研修報告をして、研修の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着部会」で、同業者と交流している。現在は管理者だけが参加しているが、今後は、職員も参加できるように、働きかけをしていきたいと考えている。	○	一般職員にも参加計画を考えられているようなので、実現に向けてさらなる努力を期待したい。また、市の取り組みだけでなく、同業者同志で、オリジナルの交流機会づくりにも、今後努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族には入居前に本人の見学等を勧めているが、今のところ要望はなく、入居日が初めて見る場所となることが多い。	○	入居が決まってからでも、本人がこれから暮らす場所と雰囲気とを段階的に把握できるように配慮されたい。見学とか職員との交流等の機会を、入居前にホーム側と家族が共にその機会を作っていくことが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	暮らしの中で、共に支え合える関係作りに努力している。畑や花壇の世話、食事作りでは味付け・味見等。片付けでは食器ふきなど、入居者のできる範囲での協力を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情から、希望や意向を把握するように努めている。本人と意思疎通が困難な場合には、家族から話を聞いたり、家族アンケートやサービス計画等を参考にして対処している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族アンケートも今年から実施し、まとめを記録。介護相談員等も月1回(2名)受け入れ、個々の介護相談の機会をつくったりしている。また、生活記録に全職員で意見を出し合ったりして、個々の介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回の見直し、臨機応変の見直し等々、毎日、職員全体で利用者一人ひとりの状況確認をし、それを基に関係者と話し合い、現状に即した介護計画作りや見直しを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今秋、開設3年を迎えるのを機に、リビングスペースを利用してのデイサービス、そして、できればショートステイのサービス提供も前向きに考えている。	○	管理者は既に関係事業所等の見学等も済ませているので、計画実現に向けて、今後の努力を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を受けて、かかりつけ医をきめている。遠方で通院が困難な場合は、ホームかかりつけの医院としているが、協力医院の医師や看護師とは日頃から、何でも相談できる関係づくりができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対して、事業所が対応し得る最大のケアについて、できること、できないことをきちんと説明している。「看取りの指針」も作られ、医療関係者や家族との連携、職員の教育・研修も図られ、方針の共有もできています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に穏やかに寄りそい、丁寧な言葉かけで接している。個人情報ファイルも、管理室で人目につかない工夫がしてある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの自動車や隣接のデイサービスの自動車等で希望に応じて通院や買い物、散歩外出等をしている。デイサービスでの催しに行ったり、ホーム周辺の散歩、畑や花壇の世話等、個々の希望に応じて日々を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、ゆったりと食事をしている。さりげない介助や、言葉かけ等もできている。おかずの一部が口に合わない方には、常備食を出して、食が進むような細かい配慮もできている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置上、入浴時間帯が15時から18時となっている。夜間入浴の支援は、現在されていない。浴室に浴槽は2つあり、1つは木製で、利用者に喜ばれている。	○	夜間入浴は、今のところ利用者に希望はないが、希望が出てきた時の対応を、職員配置等も含めた改善が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの暮らしの中で、できることはしてもらえようお願している。花の手入れや食事の準備、後片付け、洗濯物をたたむことなどで協力を得ている。してもらったら感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じてもらうために、本人の要望等に応じた外出支援をしている。計画的な外出、気晴らしのドライブ等をして、戸外に出かけたり、職員の畑見学や、隣接しているデイサービスの催しなどにも気軽に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間玄関のみ。日中は、利用者の様子を、職員が共に生活する中で察知し、安全面に配慮しながら、自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を実施。参加できなかった職員へは報告会を開き、災害時の対応を職員全員が共有するようになっている。近くに民家がないので、消防署との連携を密にした訓練もしている。消防車が来るまでの利用者の集合場所等の確認も、消防署指導できている。	○	計画的な避難訓練等はできているが、災害にそなえた物品等の準備はされていない。水や食料等、3日間程度の保管は準備されることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の中に、生活習慣病の方がおられるので、持病対応の食事を提供中。何かあれば、デイサービスの栄養士に相談し、助言を得ることができる。水分チェックや補給もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所があるリビングは、花が飾られ静かな音楽、適度な照明。壁には季節を感じる飾り付けや利用者の活動写真等が貼られて、なごみのある空間。西日の当たる廊下の奥にカーテンをつけて、廊下部分も心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年よりは、家族と相談して使い慣れた家具や生活用品による雰囲気づくりに配慮している居室もあるが、まだ殺風景な居室もある。	○	居室の雰囲気づくりは、家族の協力が不可欠。毎月の個々の家族への便りや、家族会等にも伝えて、事業所側から家族の支援を喚起されることを期待したい。